

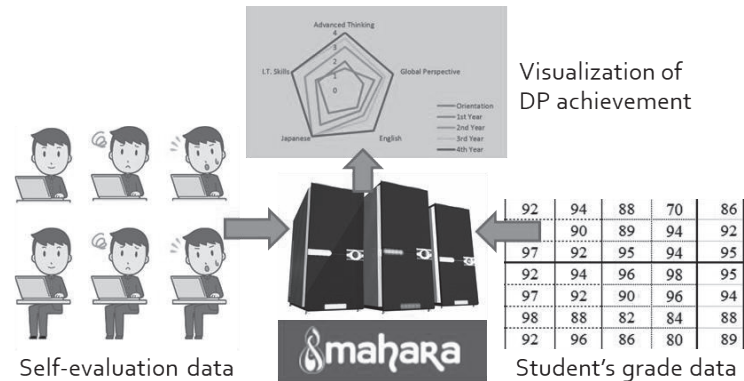
ディプロマポリシー（DP）達成進捗度の測定 — 学生のDP自己評価システムの構築 —

宮崎国際大学

国際教養学部 学部長 アンデルソン・パッソス

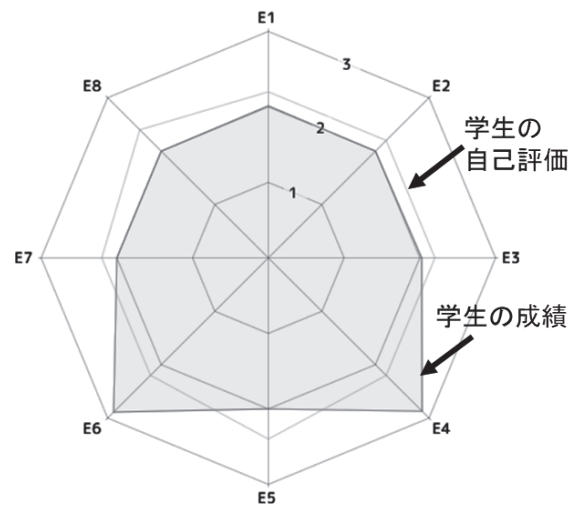
1 はじめに

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針：DP）の達成の進捗度を把握することは、学修成果の可視化において重要である。そこで、本講演会では、DP評価システムの構築について報告する。



2 ディプロマ・ポリシー(DP)の達成度評価

本学国際教養学部は、高度な思考力（DP1）、国際的な視野（DP2）、英語力（DP3）、日本語表現力（DP4）情報通信技術（DP5）の5つのDPを掲げ、DPの達成度を測定するために40の評価項目（DPルーブリック）を策定している。本学のDP評価は、1) 学生が定期的（年1回）にインターネットを通じて40項目のDPルーブリックを自己評価する。2) 各DPルーブリックに割り付けられた授業科目（カリキュラム・マップ）の成績を40項目のDPルーブリック毎に集計して、成績の達成度を客観評価する。3) さらに、学生は評価結果を見て、DPの達成の進捗度を把握することで行っている。図1にはDP3英語力について学生の自己評価と成績を表したレーダーチャートを示す。レーダーチャートでは、各学年の評点が重ならないようにするために、各学年の評点に0～3点の加点をして、学生の自己評価は線で、成績は面で表した。このシステムによって、PDCAにあたる自己評価・客観評価を構築することができた。



- E1. 自然なリズムで明瞭に話す
- E2. 状況に応じて、適切な語彙を用いて話す
- E3. 会話を始め、維持する
- E4. 証拠に基づいた論点をもって自らの考えを書面で表現する
- E5. 複数の構文を正確に使用する
- E6. 文章を論理的で筋道正しく構成する
- E7. 文章を素早く読み理解する
- E8. 文章を要約することで、自らの理解度を確認する

AP事業によって、シラバス(Plan)→授業(Do)→自己評価・客観評価(Check)→授業内容は手法の改訂・シラバスへの反映(Action)のPDCA教育改善システムを完成することができた。

図1. 学生の自己評価と成績でDPルーブリックを評価した結果：2年生の英語力（DP3）の例